

(24) 穴石神社 (あないしじんじゃ)

住所：三重県伊賀市石川2291

TEL： 0595-44-1299

参拝日：2013年7月10日、2014年9月14日

主祭神：木花佐久夜比賣命

祭 神：天津兒屋根命、天長白羽命、天香香脊男命、市杵嶋比賣命、宇迦能御魂命、火産靈神、彌都波能賣神、大山祇命、武甕槌命、經津主命、健甕須佐之男命、仁徳天皇



鳥居



石造宝篋印塔



鐘楼

石段を8段上ると「穴石神社」の石柱と左右対をなすに大きめの石灯籠がある。左手奥には南北朝中期(1359)に造立された石造宝篋印塔(せきぞうほうきょういんとう)があるが、これは青山岳の毘沙門寺から移されたそうである。右手奥には素朴な造りの“大神宮”と刻まれた大きな石灯籠が金網で囲われて立っている。神明造りの石鳥居をくぐると右手に鐘楼があり、アラカシなどの大きな木々や沢山の石灯籠が並んだ参道を歩いて行くと大きな広場があり、右にクスノキ、左にシラカシの大木が立っている。小川にかかる小さな橋を渡ると二つ目の神明造りの石の鳥居があり、境内には手水舎、神楽殿、社務所などがあり、正面に阿吽の石の狛犬に守られて拝殿がみえる。本殿は神明造りで内削の千木と枕木が5本みえる。宝物は木造狛犬で案内板によると「高さ54cmの着色された阿吽の一对の狛犬である。後頭部内に墨書銘があり、元和6年(1620)に河合重種と戌亥(乾)孫七郎および氏子80余名が奉納した物で、江戸初期の秀作である」とあり、阿山町文化財に指定されている。境内神社としては英霊殿(戦没者)があり、例祭は4月16日、勧請縄釣行事が1月第2日曜日に行われている。

本神社は裏が山で、社叢はクスノキ、ヒノキ、シラカシ、アラカシ、アカガシ、ヒメユズリハ、マンリョウ、モミ、アカメガシワ、コムラサキ、フジ、タブノキ、ツガ、アオハダ、ヤブニツケイなど緑豊かである。

由 緒 (三重県神社誌)

当社の創祀は明らかでないが、三代実録貞観元年(859)正月27日に穴石神社が無位から従五位下に昇叙したことがみえる。「神社載録」には「其ノ社地二就テ(古来異説多シト雖『三国地誌』二河合村大字石川ノ天津社ヲ以テ之ニ擬シ爾来此ノ説最モ有力ナルカ如シ」とある。



鳥居、手水舎、拝殿



拝殿、狛犬



本殿

明治39年9月26日から明治42年4月13日にわたって、宮許を受けて本村村社無格社並に境内社など42社を合祀した。大正2年には阿山町大字石川字阿保津島神社、若宮八幡社境内社をも合祀している。

由 緒 (平成祭データ)

本社は延喜式(西暦928年)内社にして神名帳に、穴石神社とある。その創立は不詳であるが「清和実録」に「真観元年(西暦858年)巳卯正月27日庚申京畿七道諸神進階及、新叙奉授伊賀無位穴石神従五位下」とあるので、それ以前であることは明らかである。

又図書に「石川村天津社は其社地甚旧く社頭の結構尤古稚にして、古来の式社と云うべし、且名張郡国津社を以って国(伊賀国)の南辺を鎮し、本郡天津社(本社)を以って国の北辺を鎮し、国の中央敢国津社を以って中極を鎮し、一の宮と称す」とある。按ずるに、一名天津社とも称されていたと思われる。

古来本社の所在については古書に各説があるが、藤堂元甫「三国地誌著者」の石川村天津社の説が正しいとして認められている。天正9年(西暦1581年)伊賀の乱により、社殿、古書等は悉く焼失した。明治39年9月より大正2年4月の間において、字内及境内に奉斎されていた各社を合祀して、穴石神社と単称することになった。



石灯籠